

解説

超過死亡：“事実を事実として知る”とは ということか？

福島 雅典

一般財団法人LHS研究所

Unveiling Excess Mortality: How to know the fact as it is

Masanori Fukushima

Foundation of Learning Health Society Institute, Nagoya, Japan

Rinsho Hyoka (Clinical Evaluation). 2024 ; 52(1) : 63-4.

昨年、超過死亡が問題になった。朝日新聞は2023年5月6日の朝刊でコロナパンデミック関連超過死亡について一面トップで報じ、その調査結果を紙面1ページを使って、全都道府県の超過死亡者数のヒートマップを掲げて詳細に解説した。しかしながら、このデータをそのまま鵜呑みにするわけにはいかない。高齢化率の都道府県別のばらつきは非常に大きいため、高齢化した県では超過死亡率（一年間の予測死亡数との差、10万人当たり）は大きくなるからだ。

本号に和訳を掲載した論文¹⁾の共著者である小島は、2023年6月2日に公表された2022年の人口動態統計データをもとにEurostatの方法で粗死亡数を用いて超過死亡率を算出し、子宮がん、乳がん、卵巣がん、白血病、膵がん等々において、2020年と比較して、2022年には死亡が増加したことを突き止めて、2023年6月8日にアゴラ・言論プラットフォームに寄稿した(下記URL参照)。

<https://agora-web.jp/archives/230607015439.html>

死亡者数の増加が起きている「事実」(現象)は間違いなさそうだ。それが証拠にこれまで順調に延伸してきた平均寿命が2022年に短縮に転じたのだ(令和4年簡易生命表の概況 | 厚生労働省。下記URL参照)。

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/life22/dl/life22-02.pdf>

厚生労働省が2023年7月28日に発表した令和4年(2022年)の簡易生命表によると、男の平均寿命(0歳の平均余命のこと、以下同じ)は81.05年、女の平均寿命は87.09年となり前年と比較して男は0.42年、女は0.49年下回っている。これはただ事ではない。国民レベルで起きている超過死亡は、新型コロナウイルス感染症による死亡数増加だけでは説明できない。国民の寿命に影響する人間の健康状態の悪化にかかる何かが起きている。

ここで「事実」としたのは、上述の朝日新聞の記事から何が分かるのか？ どうも判然としないか

らである。事実は、それを知る本人にとって具体的に何を意味するかが理解されない限り問題とならない。そして、意味の理解にはほとんど必ず因果の問題が付きまとう。現象と因果は科学においては常に中心的問題である。起こっている現象を事実として正確に記述する作業は科学実践の第一歩であり、超過死亡についてもそれは真である。よって、超過死亡の定義と記述様式を明確にしない限り、議論もできないし、因果推論も全くの外れなものとなろう。

超過死亡数は、所与の時点における死亡数を過去のデータからの予測値と実測値との乖離を求めるものであるから予測値の算出方法によって異なることになる。その予測方法が検証されないまま見かけの死亡者数超過を捉えて議論を進めるのは robustness を欠く。

そこで、超過死亡について意味を汲み取ることが可能となる記述をする、すなわち超過死亡という現象を正確に記述する作業の要件を規定するならば、①年齢調整死亡率での比較、②死因別に解析する、③過去から現在までの推移からの有意な逸脱、④性別、⑤年齢別、⑥地域別、等々すぐに挙げられるが、まず①から③の三つに絞って検討すれば、次に④から⑥の切り口でさらに詳細な検討を進めることができる。

本論文¹⁾はこの三要件を満たす厳密な解析を筆頭著者である宜保が行って得られた結果を記述したものである。全て公開されている政府による公式の全国民レベル大規模データに基づいての解析である。今風に言えば、公開されているリアル

ワールドデータを用いてオープンサイエンスとしてデータサイエンスを実行したものである。こうして、ようやく“超過死亡”と呼ばれた現象に初めて科学的にアプローチすることが可能になった。

次になすべき事は明白であり、実行可能である。本論文中、「限界」の項に「本解析は記述疫学に過ぎず（因果関係を論じるには）ワクチン接種状況別にみたさらなる分析疫学的研究が必要」と記載した通りである。すなわち、統計学的に有意な年齢調整死亡率上昇が判明した癌腫によって亡くなった人全てについてワクチン接種歴、COVID-19感染歴調査を行えばよい。国はそのデータを保有している。全国民にワクチン接種を推進した以上、国は平均寿命短縮、超過死亡率上昇等々の深刻なアウトカムを検証し、国民が被った甚大な健康損害の原因を究明する責任があるのではないか？

文 献

- 1) 宜保美紀, 訳・監訳. 小島勢二, 藤沢明徳, 菊池貴幸, 福島雅典, 監訳. 平井由里子, 訳. 日本におけるCOVID-19パンデミック時のmRNA脂質ナノ粒子ワクチン3回接種後のがん年齢調整死亡率の上昇. 臨床評価. 2024 ; 52(1) : 65-90. [原本 : Gibo M, Kojima S, Fujisawa A, Kikuchi T, Fukushima M. Increased age-adjusted cancer mortality after the third mRNA-lipid nanoparticle vaccine dose during the COVID-19 pandemic in Japan. *Cureus*. 2024 Apr 8 ; 16(4) : e57860. doi:10.7759/cureus.57860]

* * *